

# 1 法人の概要

## (1) 学校法人の沿革

- 1884年 ドイツ人ルドルフ・レーマン博士に学んだ人々が協力して上京区（現在は中京区）  
富小路夷川下ルに京都私立独逸学校を創立  
別科として薬学科を開設
- 1889年 校舎を上京区（現在は中京区）河原町三条上ルに移し、医学予備校を併置
- 1892年 薬学科を廃し、私立京都薬学校を設立
- 1898年 上京区（現在は左京区）夷川通川端東入ル秋築町に移転
- 1902年 医学予備校を廃止
- 1919年 専門学校令により京都薬学専門学校を設立  
私立京都薬学校を廃止
- 1932年 東山区（現在は山科区）山科御陵中内町に校舎を新築し移転
- 1949年 学校教育法により「京都薬科大学」が認可
- 1952年 京都薬学専門学校を廃止
- 1956年 東山区（現在は山科区）山科御陵中筋町に運動場を建設
- 1959年 図書館新築
- 1960年 旧南校舎（7号館）新築
- 1962年 薬学部製薬化学科増設
- 1964年 創立80周年記念事業の一環として2ヶ年計画で校舎の増改築を実施
- 1965年 東校舎（5号館）新築、1966年北校舎（4号館）、中校舎（現6号館）新築
- 1965年 大学院薬学研究科修士課程設置
- 1968年 伏見区日野林に薬用植物園移転拡充
- 1970年 中央動物研究施設（現動物研究センター）新築
- 1971年 山科区御陵四丁野町（本校地より南約50m）に新校地を購入
- 1972年 中央講堂兼体育館新築
- 1973年 南校舎（教養課程）新築、薬学部生物薬学科増設、3学科制となる  
実習研究棟（現8号館）新築
- 1974年 図書館書庫増築
- 1976年 製薬化学科、生物薬学科の入学定員増員
- 1977年 大学院薬学研究科博士後期課程設置
- 1979年 放射性同位元素研究センター（RIセンター）新築
- 1981年 大学ホール新築  
中央動物研究施設（現動物研究センター）改築
- 1983年 北西校舎（現教育研究総合センター）新築
- 1984年 創立100周年
- 1985年 創立100周年記念事業として滋賀県滋賀郡志賀町に蓬莱セミナーハウス新築
- 1986年 山科区御陵四丁野町（南校舎隣接地）に新校地を購入しテニスコート新設
- 1988年 創立100周年記念事業として生命薬学研究所（現S棟）新築
- 1993年 大学院薬学研究科修士課程入学定員増員
- 1995年 大学入試センター試験導入
- 1997年 臨床薬学研修センター、情報処理センターの設置
- 1999年 大学院修士課程に臨床薬学専攻設置  
創薬科学フロンティア研究センター新築
- 2000年 本館、1号館取壊し
- 2001年 学生会館 Pavot（パボ）新築
- 2003年 創立120周年記念募金事業として愛学館3階に愛学ホール設置  
7号館取壊し

- 2004年 創立120周年  
創立120周年記念事業（回顧写真展、物故者追悼式、ルドルフ・レーマン博士墓所修復）
- 2005年 創立120周年記念事業として愛学館新築  
創立120周年記念事業（愛学館竣工式・見学会、記念式典・祝賀会、  
「京薬のあゆみとともに」・「創立120周年記念誌」発刊、CD・ROM）  
薬学教育6年制の認可  
薬学6年制学生募集開始、薬学4年制課程学生募集停止
- 2006年 4・5号館取壊し  
薬学6年制課程開設
- 2007年 「京都薬科大学中期計画」の答申及び中期計画「躬行プラン」の推進  
臨床薬学教育研究センター新築  
2号館、RIセンター、大学ホールを取壊し、RIセンターは、南校地S棟に移転  
蓬莱セミナーハウス廃止
- 2008年 8号館一部取壊し

## (2) 設置する学校、学部、学科等

設置する学校	学部・学科等
京都薬科大学大学院	薬学研究科（薬学専攻、臨床薬学専攻）
京都薬科大学	薬学部（薬学科、製薬化学科、生物薬学科）

注) 2006年度から薬学科のみ

## (3) 学部等の学生数の状況（平成20年5月1日現在）

区分		年次	定員	現員	男	女
学部		※1年生	360	380	129	251
		※2年生	360	409	146	263
		※3年生	360	381	146	235
		4年生	360	413	149	264
		計	1,440	1,583	570	1,013
大学院	修士	1年生	82	106	67	39
		2年生	82	75	42	33
	博士	1年生	8	6	5	1
		2年生	8	12	8	4
		3年生	8	9	7	2
		計	188	208	129	79
合計			1,628	1,791	699	1,092

注) ※6年制

## &lt;参考&gt; 6年制学部、学科、学生数（平成21年4月3日現在）

区分	年次	定員	現員	男	女
薬学部 薬学科	新1年生	360	406	162	244

## (4) 学生数の推移（平成21年3月1日現在）

年度 項目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
学部生	1,658	1,632	1,646	1,645	1,601	1,569	1,552	1,562	1,571	1,535
院生	164	185	195	207	212	202	225	227	198	206
計	1,822	1,817	1,841	1,852	1,813	1,771	1,777	1,789	1,769	1,741

## (5) 入学志願者数の推移

年度 項目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
学部志願者	3,417	3,837	4,070	4,386	4,239	3,708	2,859	2,601	2,630	2,421
大学院志願者	118	121	114	139	122	148	122	111	129	133

(6) 薬剤師国家試験の推移

<総数>

年度 項目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
受験者	481	452	448	430	479	491	429	437	473	471
合格者	403	378	387	355	392	432	332	332	380	431
合格率 %	83.78	83.63	86.38	82.56	81.84	87.98	77.39	75.97	80.34	78.77

<新卒>

年度 項目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
受験者	406	387	384	362	382	370	357	337	346	344
合格者	361	341	348	322	345	365	307	287	310	305
合格率 %	88.92	88.11	90.63	88.95	90.31	98.65	85.99	85.16	89.60	88.66

<既卒>

年度 項目	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
受験者	75	65	64	68	97	121	72	100	127	127
合格者	42	37	39	33	47	67	25	45	70	66
合格率 %	56.00	56.92	60.94	48.53	48.45	55.37	34.72	45.00	55.12	51.97

(7) 役員に関する事項(平成21年3月31日現在)

<理事：11人 監事：2人>

役職	氏名	選出区分	備考
理事長	田村 正昭	有識者	
常任理事	西野 武志	学長	
常任理事	野出 學	副学長	
常任理事	乾 賢一	有識者	
常任理事	武田 禮二	有識者	
理事	蘆田 康子	有識者	
理事	竹内 孝治	評議員	教員
理事	谷口 隆之	評議員	教員
理事	土屋 勝	評議員	
理事	宮秋 昭	評議員	
理事	宮本 茂敏	評議員	
監事	入江 一充	—	
監事	村山猪一郎	—	

(8) 評議員に関する事項(平成 21 年 3 月 31 日現在)

<評議員数 : 32 人>

氏 名	選 出 区 分	備 考
西野 武志	学 長	
野出 學	副 学 長	
北出 達也	教 員	
河野 茂勝	〃	
後藤 直正	〃	
竹内 孝治	〃	
谷口 隆之	〃	
中田 徹男	〃	
濱崎 博	〃	
安井 裕之	〃	
石黒 博直	卒 業 者	
伊槻 雅子	〃	
久米 光	〃	
白木太一郎	〃	
田中 正勝	〃	
土屋 勝	〃	
土岐 隆信	〃	
増田 善昭	〃	
松井 常孝	〃	
宮川 克之	〃	
宮本 茂敏	〃	
森田 和子	〃	
山口 泰秀	〃	
涌羅 彰夫	〃	
蘆田 康子	有 識 者	
乾 賢一	〃	
菊本 均	〃	
児玉 孝	〃	
武田 禮二	〃	
田村 正昭	〃	
宮秋 昭	〃	
村澤 悟	〃	

(9) 職員に関する事項（平成 21 年 3 月 1 日現在）

<職員数>

(1) 教育職員： 91 人

学 長	1
副 学 長	1
教 授	26
准 教 授	22
講 師	15
助 教	23
助 手	3

(2) 事務職員： 40 人

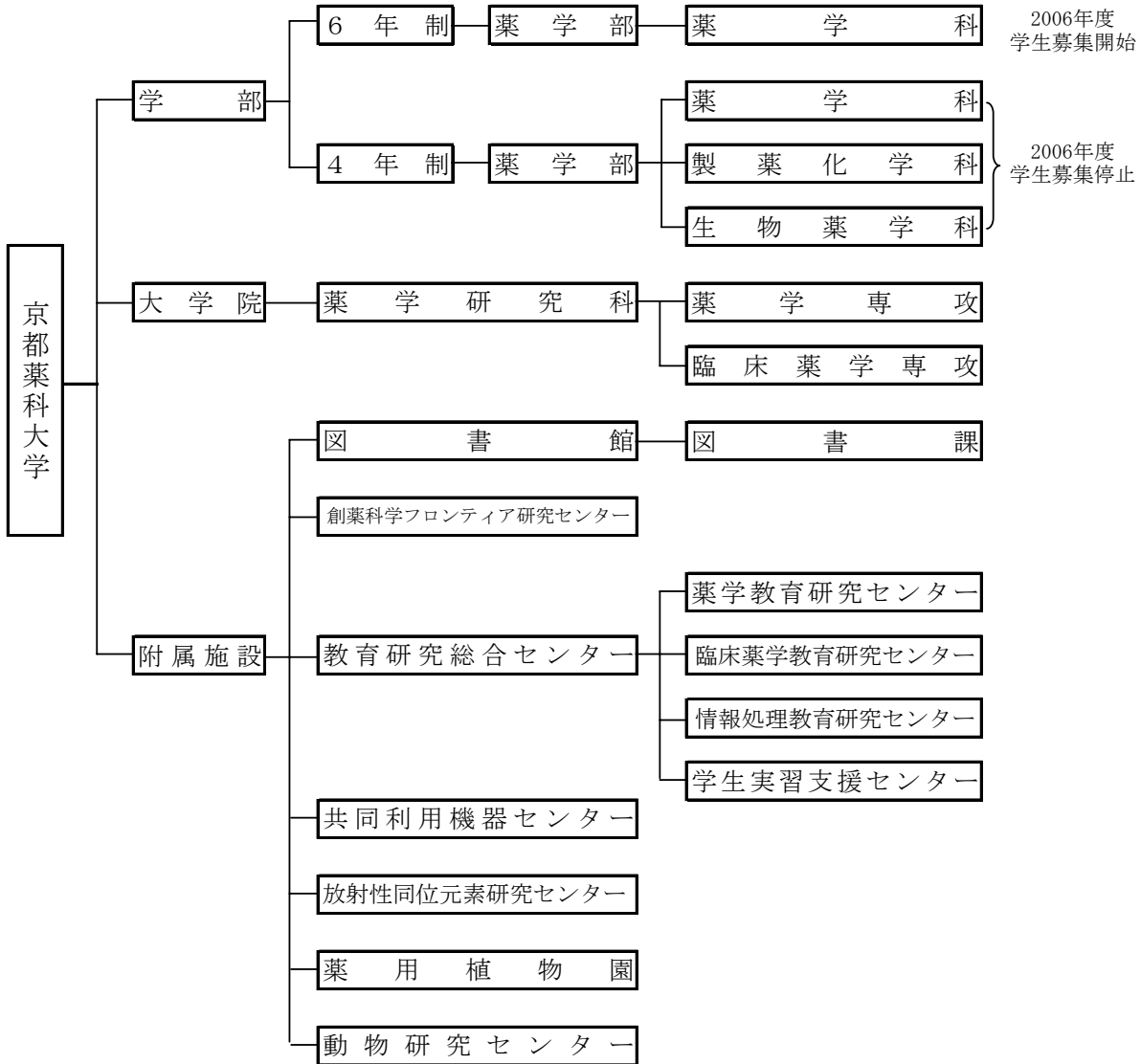
局 長	1
次長・参事	1
課長・主査・補佐	9
係長・主査	8
主 事	18
事 務 員	2
契約職員	1

(3) 役職者一覧

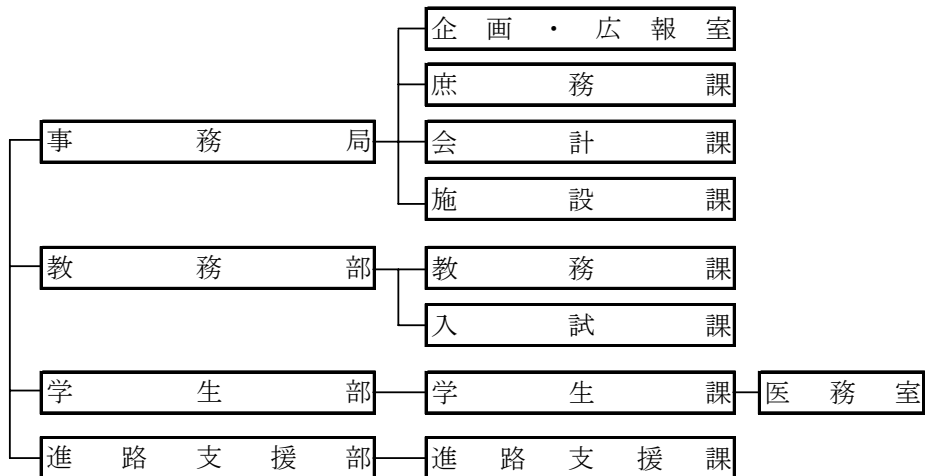
役 職	氏 名
学長	西野 武志
副学長	野出 學
研究科長	竹内 孝治
教務部長	谷口 隆之
学生部長	濱崎 博
進路支援部長	後藤 直正
図書館長	山本 昌
創薬科学フロンティア研究センター長	木曾 良明
共同利用機器センター長	吉川 雅之
薬用植物園長	吉川 雅之
動物研究センター長	高田 寛治
薬学教育研究センター長	井上 武久
臨床薬学教育研究センター長	高山 明
情報処理教育研究センター長	河野 茂勝
学生実習支援センター長	北出 達也
事務局長	村澤 悟
事務局参事	稲本 浩一

# 本学の組織図

<京都薬科大学組織図>



<事務組織>



## (11) 系列の状況

学校法人が株式を50%以上保有している、または、出資割合が50%以上の法人はありません。

## 2 事業の概要

### (1) 当年度の事業の特徴

- ① 理事長、理事、評議員および監事の選任
- ② 中期計画「躬行プラン」の推進
- ③ 文部科学省の推進事業
- ④ 戦略的大学連携支援事業の認可
- ⑤ 職員評価制度の構築に向けて
- ⑥ 職員研修会の実施
- ⑦ 共用試験（CBT、OSCE）のトライアル実施
- ⑧ 年度末定年制度の導入
- ⑨ 施設整備の状況
- ⑩ 図書館業務の外部委託
- ⑪ 消防訓練の実施

### (2) 当年度の事業の目的と進捗状況等

#### ① 理事長、理事、評議員および監事の選任

評議員の任期満了に伴い評議員の選任を行いました。2007年7月5日付で寄附行為に規定されている評議員定数を45人から32人に削減したその定数に従い、学内で行われた評議員選挙の結果に基づき法人の職員から8人、京薬会会長からの推薦に基づき本学卒業者から14人、有識者のうちから理事長が選出するもの8人を選任いたしました。これについては2008年4月17日の理事会に諮り承認を得ました。なお任期は2008年5月16日から2011年5月15日までとなっています。

理事についても、任期満了に伴う選任を行いました。評議員数と同じく2007年7月5日付で寄附行為に規定されている定数を15人から11人に削減しましたその定数に従い、有識者理事については2008年4月17日の理事会に諮り、理事長が推薦する4人について承認を得ました。評議員から選任するものについては2008年5月23日の評議員会に諮り、理事長が推薦した5人について承認を得ました。これに学長及び副学長を加えた11人が、2008年5月30日から2011年5月29日までの任期で理事を務めます。

理事の改選に伴い、理事長の選任が行われました。2008年5月30日開催の理事会において、田村正昭理事が理事長に推薦され、理事会の承認を得ました。

また、任期満了に伴う監事の選任も行いました。2008年5月23日の評議員会及び理事会に諮り、理事長の推薦する2人が選任されました。

#### ② 中期計画「躬行プラン」の推進

中期計画「躬行プラン」について、その計画に基づき各課題への取組みを進めているところです。今後も行動計画を具現化するために、「P（計画）」「D（実施）」「C（監視）」「A（改善）」サイクルを円滑に回転させ、実現させていきます。なお、「躬行プラン」の進捗状況については、2008年6月19日の理事会、2008年10月16日の理事会においてその進捗状況を報告いたしました。また、2008年12月16日には中期計画策定委員に向けての進捗状況説明会を実施し、学内へのフィードバックを行いました。

③ 文部科学省の推進事業

文部科学省支援の推進事業について、「21世紀COEプログラム」及び「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（旧名称：ハイテク・リサーチ・センター整備事業、オープン・リサーチ・センター整備事業、学術フロンティア推進事業、社会連携研究推進事業）の研究活動に取り組みました。

このうち「21世紀COEプログラム」と「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」のうちハイテク・リサーチ・センター整備事業、オープン・リサーチ・センター整備事業については2008年度で取り組みを終了いたしました。

④ 戦略的大学連携支援事業の認可

京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学及び京都薬科大学の国公立4大学によるヘルスサイエンス部門における共同大学院の設置構想が、文部科学省の戦略的大学連携事業の支援の認可を受けました。京都府立大学と京都工芸繊維大学は4年制、京都府立医科大学と本学は6年制となっており、その中での共同大学院設置という事で今後調整すべき課題は少なくはありませんが、大学院自体は京都府立医科大学に設置する方向で今後詳細を話し合う予定にしています。

また、佛教大学を代表校とする戦略的大学連携支援事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」に参画し、認可を受けました。この事業は、財団法人大学コンソーシアム京都の協力のもとで京都地域における有益で実効性のある具体的なFDプログラム等の開発を行う取組です。連携17大学、短期大学を中心に、京都地域の大学・短期大学のFD活動を推進することを目的として「京都FD開発推進センター・(仮称)」を設置し、地域の教育力を組織的・長期的に支援することとしています。

⑤ 職員評価制度の構築に向けて

教員評価制度の構築に関しては、評価制度導入に向けて検討を進めています。

事務職員評価制度に関しては、2008年度は目標管理制度のトライアルを開始し、2008年9月と2009年1月に所属長によるフィードバック面談を実施しました。また管理職を対象とした評価者研修を実施し、2009年度からの目標管理制度導入に備えました。

⑥ 職員研修会の実施

教育職員向けの研修として、2008年6月10日に米国ロードアイランド大学の清水讓名誉教授を講師に招き、米国の薬学教育の現状について学びました。2008年9月16日に近畿大学副学長の宗像恵氏を招いて教育職員研修講演「授業改革につながる授業アンケート調査と教員評価の導入」を開催し、アンケートを活用した授業改革の手法について学びました。また2008年11月20日には浄土宗大覚寺の中西玄禮住職を招き、「二度とない人生だから」の演題で講演を行いました。

事務職員に対しては、中堅職員を対象としたSGD形式による参加型のスキルアップ研修会を4回、管理職マネジメント研修を2回開催しました。

⑦ 共用試験（CBT、OSCE）のトライアル実施

病院・薬局での実務実習に出る前に共用試験が課せられました。共用試験は、コンピュータを用いた知識評価試験のCBTと技能・態度を評価するOSCEの二つを受けます。

2009年度の薬学共用試験の実施に向けて、第3回目のトライアルとして全学生を対象として、2008年7月27日及び28日にOSCE、2008年11月26日及び27日にCBTを実施しました。

⑧ 年度末定年制度の導入

職員の年度途中の退職による学生への影響を考慮し、従前の生年月日での定年制度を廃止し、2008年度から年度末定年制を導入しました。これにより、本年度は2009年3月31日をもって5人の教育職員と1人の事務職員が定年退職しました。

⑨ 施設整備の状況

本年度に行った主な施設設備関係事業としては、2008年12月から2009年2月にかけて体育館床全面張替え工事を行ったほか、グラウンド整備工事、グラウンド防球ネット改修工事、軽音楽部練習場防音工事等を行いました。これらは2007年度の蓬莱セミナーハウス売却収入からの学生への還元対応の一環として行ったものです。

その他の主な工事としては①薬用植物園にシャワー室の設置、トイレ改修及びセキュリティ工事、②動物研究センター空調設備改修工事、③旧2号館西側塀新設工事、④電力使用量モニタリング装置設置工事（S棟、フロンティア棟）等を行いました。施設の電力使用量を管理し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取組みました。

2010年2月竣工予定の躬行館については、2008年11月に本格工事に着工しました。躬行館は講義室、実習室及び研究室の講義棟、図書館及び大講義室の図書館棟の2棟からなり、渡り廊下で往来可能となります。講義棟には学生食堂やコンビニエンスストアを設置します。その他に躬行館建設の関連工事として8号館の一部取り壊し、体育館西側クラブボックス撤去を行いました。

⑩ 図書館業務の外部委託

昨年度まで本学の職員及び派遣社員等で運営していた図書館業務の運営について、業務効率化の観点から丸善株式会社に外部委託することになりました。また、本年度から閉館時間を午後8時に延長し、学生及び職員の利便性向上を図りました。

⑪ 消防訓練の実施

2008年11月6日に本校地に於いて、山科消防署協力のもと、災害に対する意識および対応力の向上、また自衛消防組織各班の任務確認等を目的に、職員や学生など約70人が参加して消防訓練を実施しました。また、山科消防署消防隊の指導により、消火器の取扱いに関する説明および消火訓練、職員による屋内消火栓を使った放水訓練も併せて行い、災害時への対応に万全を期しました。

### 3 財務の概要

#### (1) 発行体格付け（旧長期優先債務格付け）

AA-（ダブルAマイナス） 方向性 安定的

本学は平成16年8月R&I（株）格付け投資情報センター）より上記格付けを取得。  
平成20年度も格付けを更新し引続きAA-を維持しました。

#### (2) 財務係数経年比較

表1. 消費収支

(単位：千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
学生生徒等納付金	3,080,883	3,093,491	3,139,339	3,181,715	3,154,544
手数料	133,069	107,614	99,584	96,350	96,049
寄付金	210,993	79,334	65,015	55,759	58,319
補助金	692,737	614,737	589,863	534,374	510,653
資産運用収入	23,431	29,185	51,927	86,711	97,807
事業収入	46,396	52,893	73,684	53,505	65,508
雑収入	60,748	78,577	153,902	153,417	201,511
帰属収入合計	4,248,260	4,055,833	4,173,315	4,161,833	4,184,393
基本金組入額	△ 947,942	△ 383,869	△ 498,208	△ 330,230	△ 547,664
消費収入の部合計	3,300,318	3,671,963	3,675,107	3,831,603	3,636,728
人件費	1,558,903	1,543,085	1,706,469	1,535,814	1,592,822
教育研究経費	1,390,211	1,518,786	1,400,160	1,469,178	1,387,779
管理経費	274,731	290,918	282,547	273,151	248,170
資産処分差額	2,168	130,750	14,739	1,171,563	131,803
消費支出の部合計	3,226,015	3,483,541	3,403,917	4,449,707	3,360,576
当年度消費収支差額	74,303	188,422	271,190	△ 618,104	276,152

表2. 貸借対照表

(単位：千円)

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
固定資産	21,133,281	22,448,230	23,090,110	22,729,402	22,896,597
流動資産	3,879,906	2,991,367	3,135,063	3,103,374	3,823,190
資産の部合計	25,013,188	25,439,598	26,225,174	25,832,776	26,719,787
固定負債	1,123,713	1,060,901	1,062,453	1,017,822	1,005,402
流動負債	907,394	824,324	838,950	779,057	854,670
負債の部合計	2,031,108	1,885,226	1,901,404	1,796,879	1,860,073
基本金の部合計	23,504,983	23,888,852	24,387,061	23,890,185	24,437,850
消費収支差額の部合計	△ 522,903	△ 334,480	△ 63,290	145,711	421,864
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	25,013,188	25,439,598	26,225,174	25,832,776	26,719,787

### (3) 当年度の決算

#### ①資金収支の状況

学生納付金収入は、若干予算額を上回り 3,154 百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より 209 名減 (△8%) の 2,421 名となりましたが、96 百万円とほぼ予算どおりです。寄附金収入は、42 百万円と予算額を若干下回りました。奨学金制度充実のための寄附募集を行ったことから、特別寄附は予算額を上回りましたが、研究助成寄附金が低調に終わりました。補助金収入は、一般補助や特別補助の経常費補助金を中心に 510 百万円と、予算額を若干下回りました。資産運用収入は、97 百万円でサブプライム問題等により、期中に金利低下もありましたが予算額を上回りました。事業収入は、委託事業収入が予算額を若干上回り、65 百万円となりました。

一方、資金支出では、人件費は、退職した教育職員の補充が遅れたこともあり、1,605 百万円と予算額を大幅に下回りました。教育研究経費は、補助事業の規模縮小や研究費の使途を研究用機器に振替執行したことおよび繰り越したことから、予算額を大幅に下回り、821 百万円となりました。管理経費支出は、経費節減等により予算内に収まりました。施設関係支出では、京都市景観条例の制定などによる建築確認の遅れに伴い、躬行館建設の着工が 1 ヶ月遅延したことから、建設費の支払が予算額を下回り 842 百万円となりました。設備関係支出では、研究用機器の購入が増え、161 百万円と予算額を上回りました。資産運用支出は、組入計画に基づく躬行館建設のための 300 百万円積立および奨学金基金に 120 百万円を積み増しました。その他は、引き当て資産の統合に係る繰り入れおよび国債満期償還金の繰入です。

以上により、次年度繰越支払資金は、3,610 百万円と予算を大幅に上回りました。

#### ②消費収支の状況

帰属収入は、資産運用収入、雑収入等の増により予算を 25 百万円上回り 4,184 百万円となりました。

また、基本金の組入れは、当年度の施設設備関係支出は 1,003 百万円でしたが、第 2 号基本金から 700 百万円の振替を行ったこと、229 百万円の除去があったことから第 1 号基本金組入額は 97 百万円となりました。第 2 号基本金は組入れ計画どおり 300 百万円、第 3 号基本金へは奨学金基金へ 120 百万円組入れ、合わせて 547 百万円の基本金組入れとなった結果、消費収入の部合計は、286 百万円増の 3,636 百万円となりました。

一方、支出においては、人件費、教育研究経費、管理経費の減により予算を 290 百万円下回り、消費支出の部合計は 3,360 百万円となりました。この結果、当年度消費収支差額は 276 百万円の収入超過となり、翌年度に繰越す消費収支差額は 421 百万円の収入超過となっています。

また、当年度の消費収支決算においては、経営判断の指標となる帰属収支差額 (帰属収入合計－消費支出合計) が 823 百万円となり、帰属収支差額比率は、19.7%となりました。

#### ③貸借対照表の状況

有形固定資産は、躬行館建設着工に伴う建設費の支払が発生したことから前年比 250 百万円増の 11,639 百万円になりました。その他の固定資産は、第 2 号基本金へ 300 百万円、第 3 号基本金へ 120 百万円の組入、引当資産の積み増しを行いました。躬行館建設費に充当するため第 2 号基本金引当資産を 700 百万円取り崩したため前年比 82 百万円減少し 11,257 百万円となりました。

また、流動資産は、施設関係支出の大半を第 2 号基本金の取崩しにより処理したため、現預金が 577 百万円増加し、前年比 719 百万円増の 3,823 百万円となりました。その結果、資産の部合計は 26,719 百万円となり、887 百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債 1,005 百万円は全額退職給与引当金です。流動負債 854 百万円は、未払金、前受け金、預り金を計上しています。平成 21 年度入学生の授業料等前受金が増加したため、前年比 75 百万円増となりました。この結果、負債の部合計は 1,860 百万円となっています。

基本金の部は、第 2 号基本金には組入れ計画に基づく 300 百万円と運用収入 23 百万円を組入れましたが、躬行館建設資金として 700 百万円を第 1 号基本金へ振替えたため、差引 375 百万円の減の 4,207 百

万円となりました。第3号基本金には奨学金制度充実を図るため120百万円と運用収入計5百万円をそれぞれ組入れています。その結果、基本金の部合計は24,437百万円となり、前年比547百万円の増加となりました。

消費収支差額の部は、当年度収支は276百万円の収入超過となり、前年度からの繰越収支差額145百万円を合わせて消費収支差額の部合計は421百万円となりました。

(4) 施設、設備の状況

財務計算書「固定資産明細表」記載の通りです。

(5) 監査の状況

本学は、私立学校振興助成法第14条第3項の規程に基づき、平成21年3月31日現在の計算書類、すなわち、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表について、大谷公認会計士事務所の監査を受けています。